

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ(ファシリティマネジメントビジネスユニット)様の事例

<b>BCMS の登録範囲</b>
自社データセンター ビルの維持運用管理
<b>BCMS を構築したきっかけと目的</b>
データセンターのファシリティ(建物、電力、空調、セキュリティ等)の事業継続はシステムを途絶させない為の重要な位置付けであり、仕組みの構築の必要性があった為。
<b>BCMS に取組んで改善されたこと(事業継続戦略の実行状況、認証取得のメリットなど)</b>
データセンターが災害発生時に確実に事業継続を行えることが第三者機関に証明されたことで、当社データセンターの信頼性が「見える化」ができたこと。
<b>BCMS 構築・運用を通して気付いたこと(目標復旧時間達成状況[実践や演習などを通じた]についても)</b>
BIAを通して、重要業務の洗い出しを実施し、RTOを定めるのであるが、有効性を高める難しさを感じる。
<b>BCMS を構築した時に苦労したところ</b>
組織や業務委託先を含めた横断的マネジメントや、文書体系を何をモデルにすべきか苦慮した。
<b>東日本大震災やタイ洪水など、実際の脅威が発生した際にBCMSを構築・運用していたおかげで助かった点や課題</b>
災害対策室の立上げや、建物のチェック項目等教育訓練の中で実施してきた効果として、迅速に対応が図れた点が有効であった。東日本大震災に教訓は、原子力発電所等の新たな脅威や被害想定そのものが見直しとなり、有効性の確保を課題と感じている。
<b>組織(経営)戦略実現のための、事業継続の位置付け</b>
国内のニーズも高まっている時勢もあり、必要不可欠な位置付けである。
<b>BCMS を取得してよかったところ、他者にBCMSをお勧めするとすればどういうところが良い点か</b>
マネジメント手法を活用することにより、継続的に運用できる点。
<b>BCMS 規格に対する問題点・改善提案</b>
とくにありません。